

地元学レポート

日 程：プログラム内容

- ①事前課題として一代記、地元の方にインタビューと環境クイズ（各自治体にて）
- ②吉本哲郎氏による「地元学」の講義（東京にて） 6月8日（日）
- ③地元自治体で地元学の実践（各自治体にて） 6月8日（日）～6月26日（木）
- ④地元学の発表、自由発想会議（水俣市にて） 6月28日（土）

文 責：福岡県大刀洗町 棚町佳菜

私はずっと大刀洗町は何もないところだと思っていた。大刀洗町のいいところは何かと聞かれても何も言えなかった。生まれて育った町なのに、何が好きなのか言えなかった。そんな中取り組んだ地元学。

一代記の作成は、こんな私におじいちゃん達が自分のこれまでの話をしてくれるのだろうかと不安が大きかった。お願いをしてみると快く引き受けていただき、いろいろな話をしてくれた。戦争や今では考えられないような生活。人の話を聞くのは面白いなと感じた。同時に行っていた地元の方へのインタビューでは、まず誰にインタビューしたらいいのだろうと戸惑ったが、皆快くいろんな話をしてくれた。大刀洗のいいところをみんな笑顔で話してくれる。知らないのは自分だけだった。環境クイズはわからないことばかりだった。何もないのではなく、何も知らなかったことに気付いた。

次に、地元学とは何かを学んだ。はっきり何かをつかめなかったが、水俣市の再生にはまず足元にあるものを探す取り組みからはじまり、愚痴から知恵へ変わっていったことがわかった。楽しむこと、とにかくやること、冗談をいうこと、遊ぶことを言われた。そして、個性、自分、地域を知れば奇跡が起こることを教えてもらった。

それを踏まえて、地元での調査。「いいところ」を探したいという想いがあった。自分には見えていない大刀洗のいいところは何なのだろうか。講義のとき言われていた音に注目。「ホンニネ、ホンニよいとこ大刀洗」と書かれている大刀洗音頭がある。ここを辿ることでいいところが見付かるかもしれないと思い、歌詞を辿っていった。大刀洗は車がないと交通手段がない。普段通り過ぎる場所を歩いてみようと思った。歩いてみると…誰とも会わない。人がいない。しかし、歩いてみると空が広く、開放的で田植えの季節ともあって風も涼しい。そして静かである。この空気が気持ち良かった。そして、建物にも行った。この調査を通じてその歴史やその空気やにおいを感じることができた。

そして水俣市でその成果の発表である。その前に自分が作成した模造紙はわかりにくいと指導いただいた。人に見せるには囲み、わかりやすくすることが必要と教えていただいた。発表では地元の紹介ではなく、調べたことをどう生かすかと言う点で見ていく必要があることを学んだ。地元学を続けることで見えなかったものが見える。自分で見て聞くことが大事であることがわかった。

最後は自由発想会議。自由とは難しい。どのようにしたらよいか、も自由。いかに自分が枠の中にいたかを実感した。

地元学を考え、実践してみて、大刀洗はいいところだなと思った。そして、何をするにもまずはこの地元のあるもの探しからなのだと感じる事ができた。何をすればいいのかわからないのは、地元のことを知らないからだと思う。地元のことはそこに住む住民が一番よく知っている。知らないことはそこに住む超一流の人達（そこで暮らす人）に聞けばいいことがわかり、聞くことが怖くなくなった。これは始まりである。これからも地元のあるもの探しを続けていきたい。